

マイクロサージェリーが誘う根面被覆術 Root coverage procedures with microsurgery

中田 光太郎
中田歯科クリニック

抄録

日本においても欧米のように「歯の美しさ」への要求が、近年徐々に高まり笑顔を構成する歯の重要性が審美的にも認識されてきている。歯科医療の臨床においても審美的により良い結果を得るためのさまざまな技術が生み出され、取り入れられている。とくに修復治療においては周囲軟組織を含めた審美的結果を求められるようになり、これが歯周形成外科手術を発展させる要因となり、現在の歯科臨床のトピックスの一つとして注目を浴びている。さらに、歯周形成外科手術は歯周組織の形態的・解剖学的環境の改善に大きく寄与することから天然歯やインプラントの予知性を高めることへ貢献する可能性を持っている。

1996年アメリカ歯周病学会により定義付けられた歯周形成外科手術は、歯周外科手術のなかでも、形態を整える、角化歯肉の幅を増やす、露出根面を被覆するなど歯周病に対していわゆる二次的に寄与する治療法であり、その重要性は多くの科学的根拠を持って認識されているにもかかわらず、未だ歯周病治療の臨床現場ではまだまだ普及しているとは言いがたいのが実情である。その理由は技術的な難易度が高い、多くの場合移植を伴うため手術部位が複数箇所になる、などの理由による。

そこで今回歯肉退縮への対応として歯周形成外科手術の技術をふんだんに用いる根面被覆術にフォーカスを当てて、実際どのように対応しているのかをご覧いただきたいと考えている。その上でマイクロスコープを用いたマイクロサージェリーの根面被覆術におけるアドバンテージを解説したい。

略歴

1990年 福岡県立九州歯科大学卒業
1994年医療法人社団洛歯会 中田歯科クリニック開設
2009年 同 デンタルクリニックタカンナ開設
現在 京都府立医科大学 医学部/医学科 客員教授
日本顕微鏡歯科学会 認定指導医
日本臨床歯周病学会 認定医
日本口腔インプラント学会 専門医
ITI (International Team for Implantology)Fellow